

学生企画による離島での地域医療セミナーの経験

○渡辺 大¹⁾、石井 稔浩⁴⁾⁵⁾、朝日奈 文彦²⁾、荒木 晶帆²⁾、上田 哲平²⁾、高島 成香²⁾、野嶋 紗帆²⁾

堀之内 泰雄³⁾、衛藤 祐樹¹⁾、三浦 源太⁶⁾、藤本 昭夫⁷⁾、白石 憲男⁵⁾、宮崎 英士⁵⁾

1)大分大学医学部医学科 6年 2) 2年 3) 3年

4)大分県地域医療支援センター 5)大分大学医学部地域医療学センター

6)姫島村国民健康保険診療所 7)大分県姫島村



【背景と目的】

大分大学医学部の卒前教育では、5年次生のクリニカルクラークシップでの地域滞在型実習、および3年次生のシャドウイングにおいて、へき地病院・診療所で学ぶ機会を設けている。しかし、低学年のうちから地域を知る機会が欲しいとの声があり、カリキュラム外で地域医療学センター企画による地域医療セミナーを行ってきた。第5回目に当たる今回、「大分家庭医療サークル(OMPS)」の医学科1年生(現2年)が実行委員となり企画・運営を行い、離島(大分県姫島村)においてセミナーを実施したので報告する。



大分県姫島村

【方法と結果】

平成27年8月に医学科1年生5名を実行委員とする委員会を発足し、上級生および地域医療学センターの助言のもと情報収集から開始した。姫島村診療所長と電話やメールを介した相談(依頼)ののち、面談を経て、セミナー実施の了解をいただいた。平成28年1月23日に現地視察を行い、村長をはじめとした行政の方々、地元議会、NPO団体の方々と参加学生に対して姫島村の魅力伝えるための検討会を行った。その後、実行委員、姫島村それぞれメール等で内容を推敲した。22名の学生が参加し、セミナー前後でアンケートを行った。

セミナー風景



ロールプレイ

家族図

事例シート

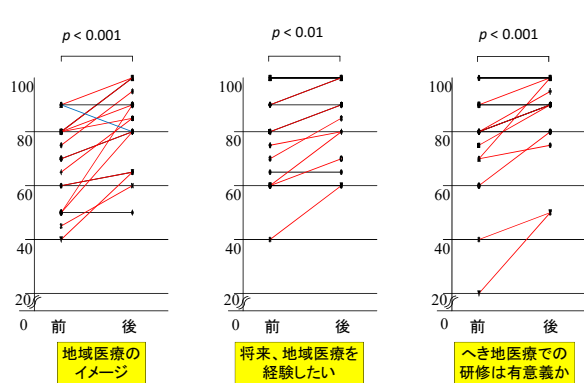
事前打ち合わせ

役になりきり家族面談

発表

事例シートの詳細な説明と注意事項。ロールプレイの目的は、患者の立場から家族の気持ちや医師の役割を体験することです。事前打ち合わせでは、家族の構成や患者の病状を確認し、ロールプレイのシナリオを作成しました。

アンケート解析(Wilcoxon検定)



学生の感想

- ☆ ロールプレイを通して、住み慣れた島で最期を迎えたいという島民の想いがわかった。
- ☆ 島の人々の生活を体験することができてよかった。
- ☆ 観光だけではわからない、島民の苦勞がわかった。
- ☆ 総合診療医として、島で医療をしてみたい。
- ☆ 医師のプライベートが案外しっかり確保されていて驚いた。

【考察と結語】

今回、地元の方々と地域医療学センターが協力し、医学科1年次生が主体となり、離島における地域医療セミナーを実施した。学生自らが企画することで高い満足度が得られた。また、本セミナーを通して、離島・へき地における医師の役割、地域住民の暮らし、医療ニーズについて理解を深めることができた。

筆頭演者、共同演者において、開示すべき利益相反(COI)はありません。